### PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

02-178669

(43)Date of publication of application: 11.07.1990

(51)Int.CI.

G03G 5/06 C09B 57/00

(21)Application number: 63-333748

(71)Applicant: RICOH CO LTD

(22)Date of filing:

28.12.1988

(72)Inventor: SHIMADA TOMOYUKI

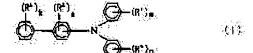
SASAKI MASAOMI ARIGA TAMOTSU

#### (54) ELECTROPHOTOGRAPHIC SENSITIVE BODY

#### (57)Abstract:

PURPOSE: To sufficiently satisfy various requirements in electrophotographic processes by forming a photosensitive layer containing at least one of specified aminobiphenyl compounds as an effective component on a conductive substrate.

CONSTITUTION: The photosensitive layer formed on the conductive substrate contains as the effective component at least one of the aminobiphenyl compounds represented by formula I in which each of R1, R3, and R4 is H, amino, dialkylamino, alkoxy, thioalkoxy, aryloxy, methylenedioxy, optionally substituted alkyl, or halogen; R2 is H, alkoxy, aryloxy, optionally substituted alkyl, or halogen; each of k, I, m, and n is an integer of 1 – 4, and when each is 2, 3, or 4, each of R1 – R4 is optionally same or different, thus permitting the obtained photosensitive body to be superior in photosensitive characteristics, high in strength against thermal shock and mechanical impact, and to sufficiently satisfy various requirements for the photosensitive body.



#### **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

BEST AVAILABLE COPY

LEST AVAILABLE COPY

#### ⑫ 公 開 特 許 公 報(A) 平2-178669

®Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

@公開 平成2年(1990)7月11日

G 03 G 5/06 C 09 B 57/00 3 1 2 Z 6906-2H 7537-4H

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全10頁)

**会発明の名称** 電子写真用感光体

> 顧 昭63-333748 ②特

顧 昭63(1988)12月28日 22出

Œ 個発 明 者

知 坴 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

眀 朰 個発

74代 理

佐々木 正臣 賀

弁理士 池浦

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

四発 明 者 有

保

東京都大田区中馬込1丁目3番6号

株式会社リコー 頭 る出

外1名

Ø7

1. 売明の名称

電子写真用感光体

- 2. 特許請求の範囲
- (1) 導電性支持体上に下記一般式(1)で表わされ るアミノビフェニル化合物の少くとも1種を有効 成分として含有する磁光層を有することを特徴と する似子写真用感光体。

$$(R^{4})_{k} (R^{3})_{a} (R^{1})_{n}$$

$$(1)$$

(式中、R1、R2及びR4は水穀原子、アミノ塩、 ジアルキルアミノ旅、アルコキシ族、チオアル コキシ基、アリールオキシ基、メチレンジオキ ン基、資換もしくは無置機のアルキル基、ハロ ゲン原子を、R®は水穀原子、アルコキシ菇、置 換もしくは無買換のアルキル掂又はハロゲンを **扱わす。またk、α、π及びnは1、2、3又は4の** 整数であり、各々が2、3又は4の整数の時は前

紀R'、R'、R'及びN'は同一でも異なっていても よい。)

(2) 前記一般式(1)で汲わされるアミノビフェニ ル化合物が下記一般式(II)で扱わされる2-アミノ ビフェニル化合物である特許請求の範囲第1項記 報の電子写真用感光体。

$$(\mathbb{R}_{7})^{\mu} \qquad (\mathbb{R}_{5})^{q} \qquad (11)$$

(R<sup>1</sup>, R<sup>2</sup>, R<sup>2</sup>, R<sup>4</sup>, k, Q, m及びnは前記と同じ)

(3) 前記一般式(1)で扱わされるアミノビフェニ ル化合物が、下記一般式(III)で汲わされる3-アミ ノビフェニル化合物である特許請求の範囲第1項 記載の電子写真用總光体。

$$(R^{2})_{m}$$

$$(R^{2})_{n}$$

$$(R^{2})_{n}$$

$$(HI)$$

(R\*.R\*.R\*.R\*.k, Q. m 及びnは前記と同じ)

#### 3. 発明の詳細な説明

#### 〔枝術分野〕

本発明は電子写真用感光体に関し、詳しくは感光を開中に特定の化合物を含有させた電子写真用感光体に関する。

#### [従来技術]

従来、電子写真方式において使用される感光体の光導電性素材として用いられていの無機物質がある。ここにいう「電子写真方式」とは、一般で表示で、例えばコロナ放電性の感光体をまず暗所で、例えばコロナ放電によって帯電せしめ、次いで像露光し、解光部のみの離像部を染料、顔料などの着色材と商分子物質なの結合剤とから構成される検触物な子(トナー)で現像し可視化して画像を形成するようにした画像形成法の一つである。

このような電子写真法において感光体に要求される基本的な特性としては、(1) 時所で適当な電

トロフルオレン-9-オンとからなる越光体(米国特 許第3484237号明細書に記載)、ポリ-N-ピニルカ ルバゾールをピリリウム塩系色素で増越してなる 越光体(特公昭48-25658号公報に記載)、有機類料 を主成分とする感光体(特別町47-37543号公報に 記載)、染料と樹脂とからなる共晶餶体を主成分 とする感光体(特別昭47-10735号公報に記載)、ト リフェニルアミン化合物を色楽増感してなる過光 体(米国特許第3,180,730号)、ポリ-N-ピニルカル パゾールとアミン誘導体を電荷輸送材料として川 いる越光体(特開駅58-1155号公報)などである。 これらの感光体は優れた特性を有しており実用的 にも低値が高いと思われるものであるが、電子写 真法において、尴光体に対するいろいろな選求を 考慮すると、まだ、これらの要求を十分に隣足す るものが得られていないのが実状である。また米 同特许你3.265.486号、特公昭39-11546号公報、 特課昭53-27033号公報に記載されている多官能第 3アミン化合物、なかでもペンジジン系化合物が 健子写真遮光体用の光導電材料として優れている

位に存せできること、(2)時所において進荷の逸 般が少ないこと、(3)光照射によって選やかに健 荷を逸散せしめうることなどがあげられる。

ところで、前記の無機物質はそれが多くの 長所をもっていると同時に、さまざまな欠点をも 有しているのが実状である。例えば、現在広く用 いられているをしてが配(1)~(3)の条件は十分 に満足するが、製造する条件がむずかしく、製造 コスするとがむずかしく、状にの 動物では、大力の をしているがなり、可能性がなく、状にの がならいながないがないがないが、 を要するなどの欠点ものの ないのでは、 を要があるないではないのではないのでは、 では、 ができないできない。 でなたのではないのではないで ができない。 でなたのできない。

近年、これら無機物質の欠点を排除するためにいるいろな有機物質を用いた電子写真用處光体が 提案され、実用に供されているものもある。例えば、ポリーN-ピニルカルバソールと2.4.7-トリニ

ことが知られているが、これらの化合物は接着樹脂への溶解度が低く感光層中で結晶化する問題がある。これを改良する為に例えば特開昭62-11216 4号公報では他の低分子化合物と併用することにより結晶化をおさえる試みがなされている。

#### (a) (a)

本発明の目的は、先に述べた従来の感光体のもつ種々の欠点を解消し、世子写真法において要求される条件を十分満足しうる感光体を提供することにある。更に、本発明の他の目的は、製造が容易でかつ比較的安価に行なえ、耐久性にもすぐれた電子写真用感光体を提供することにある。

#### 〔機 成〕

本発明によれば、準能性支持体上に下記一般式 (I)で表わされるアミノビフェニル化合物の少く とも1種を有効成分として含有する過光層を有す ることを特徴とする電子写真用過光体が提供される。

$$(R^{a})_{k} (R^{a})_{a}$$

$$(R^{a})_{n}$$

$$(R^{a})_{n}$$

(式中、R\*、R\*及びR\*は水素原子、アミノ払、ジャルキルアミノ払、アルコキシ払、チオアルコキシ払、アリールオキシ払、メチレンジオキシ 技、 置換もしくは無置換のアルキル払 又はハロゲンを R\*は R\* 及びR\*は同一でも異なっていてもよい。)

本発明において越光層に含有させる前記一般式 (I)で表わされるアミノピフェニル化合物は例え ば、下記一般式(IV)で扱わされるハロピフェニル 誘導体と下記一般式(V)で扱わされるジフェニル アミノ誘導体又は下記一般式(VI)でみわされるア ミノピフェニル誘導体と下記一般式(VII)で表わさ れるハロゲン誘導体を反応させることによって製 造される。

$$(\mathbf{R}^2)_{k} \qquad (\mathbf{R}^2)_{a} \qquad (\mathbf{R})_{a}$$

化合物Ma	R1	Rª	R³	R*
1	11	Н	11	li li
2	H	н	4-CH <sub>3</sub>	4-CH <sub>2</sub>
3	H '	H	3-CH <sub>3</sub>	3-Cl <sub>3</sub>
4	H	11	2-CII,	2-CH,
5	H	11 1	4-CII <sub>2</sub>	l II
6	ii	н	4-C2H5	4-C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>
7	н `	11	4-C2 H5	H
8	H	15	4-0CH <sub>5</sub>	4-OCH,
9	H	Ħ	3-00li,	3-0CH,
10	н	н	2-0Cil,	2-0CII,
11	н	R	4-0CH,	l H
12	H	В	4-0015	4-CH <sub>3</sub>
13	н	Н	4-0C <sub>s</sub> II <sub>s</sub>	н
14	н	11	4-NMo <sub>2</sub>	ıı
15	Н	11	4-NEta	· l n
16	н	l H	4-Cll <sub>2</sub> C <sub>E</sub> il <sub>5</sub>	. н
17	н	В	4-C2	11
18	4-CII	Н	H	н
19	4-CH <sub>2</sub>	n	4-CH <sub>3</sub>	4-CH,
20	4-Cil	11	3-CH <sub>3</sub>	3-CII <sub>3</sub>
21	4-CIL	Ħ	2-CH,	2-CII,
22	4-CH <sub>2</sub>	н	4-Cil,	ll II
23	4-Cil	11	4-Calls	Ħ
24	4-Cil	Н	4-C211s	4-C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>

(式中、R<sup>1</sup>,R<sup>2</sup>及びk, 2は前記と同じ。 Xはハロゲンを汲わす。)

$$|\mathbf{R}^{(\mathbf{R}^2)_m}| = (\mathbf{V})$$

(式中、R³,R⁴及び■,nは前記と同じ)

$$(VI)$$

$$(R^1)_L \qquad (VI)$$

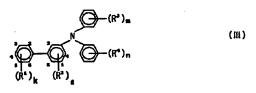
(式中、R1,R3及びk,Qは前記と同じ)

(式中、R<sup>3</sup>,R<sup>4</sup>,X及びm,nは前記と同じ)

前記合政法で得られる一般式(II)及び一般式(III)で示されるアミノビフェニル化合物を以下に 例示する。

************				
25	4-CI,	11	4-0Cl	4-0CH <sub>3</sub>
26	4-CII <sub>3</sub>	H	3-0Cll <sub>3</sub>	3-0CH <sub>a</sub>
27	4-CI <sub>5</sub>	н	4-0Cll <sub>3</sub>	Н
28	4-CI5	H	4-0C <sub>E</sub> II <sub>S</sub>	11
29	4-CIL		4-NEt <sub>2</sub>	11
30	4-CIL	- 11	3-C2	H
31	4-C <sub>2</sub> 11,	. #	4-CIL	4-Cll <sub>3</sub>
32	4-Calis	H	4-0C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	4-0C211s
33	4-C <sub>2</sub> H <sub>6</sub>	H	3-CII。	н
34	4-C2H5	13	3-CII.	3-Cli <sub>3</sub>
35	3-CIL	н	4-CII <sub>3</sub>	4-CH <sub>3</sub>
36	3-CH,	В	3-CII,	3-CII <sub>3</sub>
37	3-Cil,	11	2-CH,	2-CII <sub>3</sub>
38	H	5-al,	Ħ	Ħ
39	H	5-Cil,	4-CI <sub>3</sub>	4-CH <sub>3</sub>
40	) H	5-al,	3-CI,	3-C11 <sub>2</sub>
41	н	6-CH <sub>3</sub>	4-CII	4-CII <sub>3</sub>
42	4-C2Hs	H	н	H 1
43	3-CH <sub>2</sub>	H	Н	K
44	2-CI5	R	lt .	11
45	2-CH <sub>3</sub>	н	4-CII <sub>2</sub>	4-CH <sub>3</sub>
46	2-CI,	Н	3-CH <sub>5</sub>	3-CII <sub>3</sub>
47	н	li li	2,4-(Cll <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	· 11
48	н	Н	3,4-CH <sub>2</sub> O <sub>2</sub>	H
49	4-CII,	Н	3,4-CH <sub>2</sub> O <sub>2</sub>	Н
50	4-NNo <sub>2</sub>	н	н	H
51	4-NEta	l n	11	U
52	4-NEt <sub>2</sub>	Н	1-ai,	4-Cit,
53	4-NEta	н	3-ai,	3-CII3
54	4-NEtz	н	4-CH,	H
55	4-NEt2	H	4-C2	H
56	4-0CH <sub>3</sub>	Н	н	11
t				

57	4-00H <sub>3</sub>	Н	4-CH	4-CiL
58	4-00H3	H	3-CIL	3-CIL
59	4-0CH <sub>3</sub>	H	4-CIL	11
60	4-0CH,	11	4-001,	4-0CH <sub>3</sub>
61	4-0Cl)	H	4-0Cll <sub>3</sub>	Ħ
62	4-0CH <sub>3</sub>	н	4-0CI)	4-QL
63	4-0Calls	H	H	H
64	4-0C <sub>6</sub> H <sub>6</sub>	Ħ	4-CIL	4-CIL
65	4-0Cells	H	3-CII <sub>3</sub>	3-CII,
66	4-0CeHs	. 11	4-CH <sub>3</sub>	H
67	3-C4	Н	4-CII.	4-CH,
68	3-C4	Ħ	4-0CIL	4-0CH <sub>3</sub>
69	3-0C <sub>6</sub> H <sub>6</sub>	11	18	Ħ
70	3-0C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>	11	4-CI),	4-Cli <sub>a</sub>
71	3-0C <sub>E</sub> H <sub>S</sub>	11	3-CII,	3-CH <sub>2</sub>
72	13	H	4-nCall	н
73	4-nC311,	H	н	Н
74	4-11C3113	- 11	4-CH <sub>5</sub>	4-Cl),
75	4-SCH <sub>3</sub>	H	n n	EL .
76	4-SCH <sub>3</sub>	H	4-CI3	4-CH <sub>3</sub>
17	H	B	4-SCH <sub>3</sub>	4-SCH <sub>3</sub>
78	11	H	4-SCH,	н
79	13	8	4-tC4H5	4-tC <sub>4</sub> ll <sub>9</sub>
80	п	H	4-tC.II	4-tC <sub>4</sub> ll <sub>5</sub>
81	4-CH2CaHs	H	Н	Н
82	4-CH <sub>2</sub> C <sub>e</sub> H <sub>5</sub>	11	4-CH <sub>a</sub>	4-Cil
83	4-CH2Celle	11	4-0CH	H
84	4-Cil_Calls	H	3-CII.	3-CII.
85	4-CH <sub>2</sub> C <sub>4</sub> H <sub>5</sub>	11	2-CH <sub>3</sub>	2-Cli,
86	4-CH2 Calla	п	4-00H <sub>2</sub>	4-0CH <sub>3</sub>
87	4-Cll, Cells	н	3-0CH,	3-0CIL



化合物版	R <sup>1</sup>	R²	K <sub>3</sub>	R*
88	. н	Н	Н	H
89	H	11 :	4-CII <sub>3</sub>	4-CI),
90	. 8	Н	3-CH <sub>3</sub>	3-CII,
91	H	B	2-CH <sub>3</sub>	2-CII <sub>2</sub>
92	B	H	4-CH <sub>2</sub>	l H
93	H	11	4-CzIIs	4-C2IIs
94	н	Ħ	4-CzHs	н
95	H	H	4-0CH,	4-0CH
96	H	H	3-0CH,	3-001,
97	Ħ	Н	2-001,	2-001
98	H	H	4-0CH <sub>2</sub>	H
99	H	H	4-0CH,	4-CIL
100	11	Н	4-0Cells	13
101	н	H	4-NNe <sub>2</sub>	11
102	H	H	4-NEt <sub>2</sub>	11
103	н	H	4-CILCEIL	l u
104	H	- 11	4-C2	H
105	4-CH	H	• н	Н
106	4-CH <sub>2</sub>	н	4-CH,	4-CH <sub>3</sub>
107	4-CIL	н	3-CII,	3-CH <sub>2</sub>
108	4-CH <sub>5</sub>	H	2-CIL	2-CII <sub>3</sub>
109	4-CIL	H	4-CH <sub>3</sub>	13
110	4-CH <sub>5</sub>	н	4-Czlis	H
111	4-CH <sub>3</sub>	11	4-C211s	4-C2Hs
112	4-CIL	н	4-0CH <sub>3</sub>	4-0CH,

۱	113	4-CH <sub>3</sub>	Н	3-0CH <sub>3</sub>	3-0CII <sub>3</sub>
I	114	4-CH <sub>2</sub>	H	4-0CII <sub>3</sub>	11
I	115	4-Ci,	H	4-0C, H,	11
Ì	116	4-CI <sub>3</sub>	H	4-NEt <sub>2</sub>	H
l	117	4-CH <sub>3</sub>	H	3-C2	Ħ
I	118	4-C₂II₅	11	4-CH <sub>3</sub>	4-Cli <sub>3</sub>
ı	119	4-C <sub>2</sub> H <sub>6</sub>	11	4-0C, II,	4-0C <sub>2</sub>
I	120	4-C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	H	3-CH,	H
١	121	4-C <sub>2</sub> !l <sub>5</sub>	11	3-CH <sub>2</sub>	3-CH <sub>3</sub>
Į	122	3-CII <sub>3</sub>	H	4-CH <sub>3</sub>	4-Ci5
Ì	123	3-CII,	H	3-CH <sub>3</sub>	3-CII <sub>3</sub>
l	124	3-CH <sub>3</sub>	Ħ	2-CH <sub>3</sub>	2-Cil,
١	125	11	4-CH,	Н	H
١	126	II.	1-CIL	4-CII <sub>3</sub>	4-CH <sub>3</sub>
1	127	Н	4-CII,	3-CII <sub>3</sub>	3-CH <sub>3</sub>
l	128	il	2-CH <sub>6</sub>	4-CH <sub>3</sub>	4-Cil <sub>3</sub>
1	129	4-Calis	. 11	. 14	н
i	130	3-сн,	H	н	H
Į	131	2-CH.	н	н	H
	132	2-CH	· #	4-CH <sub>3</sub>	4-CIL
	133	2-CIL	l H	3-CH <sub>3</sub>	3-CII.
ļ	134	H	H	2,4-(CII <sub>3</sub> ) <sub>3</sub>	8
1	135	н	H	3,4-Cil <sub>2</sub> 0 <sub>2</sub>	H
	136	4-CH	н	3,4-CH <sub>z</sub> 0 <sub>z</sub>	н
Ì	137	4-NMe <sub>2</sub>	H	R	H i
ì	138	4-NEt <sub>a</sub>	H	H	H
	139	4-NEt <sub>2</sub>	н	4-Cli,	4-CH,
	140	4-NEts	Н	3-CH <sub>3</sub>	3-CII,
	141	4-NEta	н	4-CII,	B
	142	4-NEt <sub>2</sub>	н	4-C0	н
	143	4-0CIL	H	11	11
1	144	4-0CH <sub>3</sub>	н	4-CII,	4-C1,

145	4-0Clb	81	3-CII <sub>2</sub>	1 3-cii.
146	4-0Clb	6	4-CI	- 11
147	4-0CIb	 H	4-0CH <sub>2</sub>	4-0CH
148	4-0CIL	11	4-00l	H
149	4-0CH	'Н	4-00li	4-CIL
150	4-0Cells	H	H	111
151	4-0Cells	H	4-CIL	4-Cit <sub>3</sub>
152	4-0Celle	H	3-CIL	3-CIL
153	4-0CeHs	H	4-CII	Н
154	3-C2	H	4-CH <sub>2</sub>	4-CI5
155	3-C2	#	4-0Cll <sub>2</sub>	4-001
156	3-0Ce14	Н	Н	. 11
157	3-0C-11	н	4-CII-	4-CII <sub>2</sub>
158	3-0Cells	H	3-a1,	3-C1i <sub>2</sub>
159	H	Н	4-nC11	H
160	4-nCally	н	11	11
161	4-0Cally	Н	4-Cl),	4-CI,
162	4-SCIL	Н	н	11
163	4-SQ1,	Н	4-CIL	4-Cil.
164	H	н	4-SCII <sub>2</sub>	4-SCII,
165	н	11	4-SCII <sub>2</sub>	l ii
166	H.	<b>1</b> 11	4-tC4H3	4-tCalls
167	В	н	4-tCelle	4-tCells
168	4-CH_Calls	н	H	11
169	4-CH <sub>2</sub> C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	1 11	4-01,	4-CII <sub>3</sub>
170	4-CH <sub>2</sub> C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>	19	4-0CH	н
171	4-CH <sub>2</sub> C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	H	3-CII,	3-CIL,
172	4-CH <sub>2</sub> C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	н	2-CH <sub>a</sub>	2-CH <sub>3</sub>
173	4-CILC.II.	н	4-0CH,	4-OCH <sub>3</sub>
174	4-Cli_Calls	H	3-001	3-0CH <sub>a</sub>

本発明の感光体は、上記のようなアミノビフェニル化合物の1種又は2種以上を感光層2(2',2",2"又は2"")に含有させたものであるが、これらアミノビフェニル化合物の応用の仕方によって第1回、第2回、第3回、第4回あるいは第5回に示したごとくに用いることができる。

第2図における感光体は、導電性支持体1上に電荷発生物質3をアミノピフェニル化合物と結合剤とからなる電荷搬送媒体4の中に分散せしめた感

ビフェニル化合物を含有する電荷搬送層4との税 層からなる感光層2、が設けられたものである。 この感光体では、電荷搬送層4を透過した光が電 研発生層5に到達し、その領域で電荷担体の発生 が起こり、一方、電荷搬送層4は電荷担体の注入 を受け、その搬送を行なうもので、光波装に必要 な電荷担体の発生は、電荷搬送層4(主としてア また電荷担体の搬送は、電荷搬送層4(主としてア ミノビフェニル化合物が働く)で行なわれる。こ うした機構は第2図に示した感光体においてした 説明と同様である。

第4回における感光体は第3回の電荷発生層5と アミノビフェニル化合物を含有する電荷搬送層4 の積層原を逆にしたものであり、その電荷担体の 発生及び搬送の機構は上記の説明と同様にできる。 この場合機械的強度を考慮し第5回の様に電荷発 生層5の上に保護層6を設けることもできる。

実際に本発明感光体を作製するには、第1図に示した感光体であれば、結合剤を溶かした溶液にアミノビフェニル化合物の1種又は2種以上を溶解

光滑2′が設けられたものである。ここでのアミノ ピフェニル化合物は結合剤(又は、結合剤及び可 型剤)とともに電荷搬送媒体を形成し、一方、電 荷発生物質3(無機又は有機麒料のような電荷発生 物質)が電荷担体を発生する。この場合、電荷蝦 送媒体4は主として電荷発生物質3が発生する単荷 担体を受入れ、これを搬送する作用を担当してい る。そして、この婚光体にあっては難荷発生物質 とアミノビフェニル化合物とが、たがいに、主と して可視領域において吸収波長領域が重ならない というのが基本的条件である。これは、電荷発生 物質3に電荷担体を効率よく発生させるためには 電荷発生物質表面まで、光を透過させる必要があ るからである。一般式(1)で表わされるアミノビ フェニル化合物は可視領域にほとんど吸収がなく、 一般に可視領域の光線を吸収し、電荷担体を発生 する電荷発生物質3と組合わせた場合、特に有効 に電荷搬送物質として働くのがその特長である。

第3関における感光体は、導電性支持体1上に電荷発生物費3を主体とする電荷発生附5と、アミノ

し、更にこれに増越終料を加えた液をつくり、これを避難性支持体1上に熱布し乾燥して燃光層2を形成すればよい。

感光層の厚さは3~50㎞、好ましくは5~20㎜が適 当である。感光別2に占めるアミノビフェニル化 合物の景は30~70重量8、好ましくは約50重量8で あり、また、感光層2に占める増感染料の量は0.1 ~5重量%、好ましくは0.5~3重量%である。 均越染 料としては、ブリリアントグリーン、ピクトリア ブルーB、メチルバイオレット、クリスタルバイ オレット、アシッドパイオレット68のようなトリ アリールメタン染料、ローダミンB、ローダミン6 G、ローダミンGエキストラ、エオシンS、エリト ロシン、ローズベンガル、フルオレセインのよう なキサンテン染料、メチレンブルーのようなチア ジン染料、シアニンのようなシアニン染料、2,6-ジフェニル-4-(N,N-ジメチルアミノフェニル)チ アピリリウムパークロレート、ペンソピリリウム 塩(特公昭48-25658号公報に記載)などのピリリウ ム染料などが挙げられる。なお、これらの増級染

料は単独で用いられても2種以上が併用されてもよい。

また、第2図に示した感光体を作製するには、1 種又は2種以上のアミノビフェニル化合物と結合 剤とを溶解した溶液に銀荷発生物質3の微粒子を 分散せしめ、これを導電性支持体1上に強布し乾 嫌して感光限2'を形成すればよい。

磁光層2'の原さは3~50 m、好ましくは5~20 mが 適当である。越光層2'に占めるアミノビフェニル 化合物の最は10~95 重量8、好ましくは30~90 重量8 であり、また、越光層2'に占める他背発生物質3 の量は0.1~50重量8、好ましくは1~20重量8である。 電荷発生物質3としては、例えばセレン、セレン-テルル、硫化カドミウム、硫化カドミウム-セレン、α-シリコンなどの無機顧料、有機顧料とし ては例えばシーアイピグメントブルー25(カラー インデックスCI 21180)、シーアイピグメントレッド52 (CI 45100)、シーアイペーシックレッド3(CI45210)、 カルパゾール骨格を有するアソ顕料(特開町53~

物質は単独で用いられても2種以上が併用されて もよい。

更に、第3図に示した砂光体は作製するには、 導電性支持体1以上に配荷発生物質を真空蒸射するか減いは、電荷発生物質の微粒子3を必要によって結合剤を溶解した適当な溶媒中に分散した分は が被を塗布し乾燥するかして、更に必要であれば パフ研磨などの方法によって表面仕上げ、膜厚厚 なの方法によって表面仕上げ、膜厚厚 がなどを行って健構発生層5を形成し、この上に1 種又は2種以上のアミノピフェニル化合物と結合 剤とを溶解した溶液を塗布し乾燥して電荷発生層5の 利とを溶解した溶液を塗布し乾燥して電荷発生層5の 形成すればよい。なお、ここで電光を が成に用いられる電荷発生物質は前記の感光層2′ の膜明においてしたのと同じものである。

配荷発生暦5の以さは5m以下、好ましくは2m以下であり、配荷搬送暦4の厚さは3~50m、好ましくは5~20mが適当である。配荷発生暦5が電荷発生暦物度の微粒子3を結合剤中に分散させたタイプのものにあっては、電荷発生物質の微粒子3の電荷発生附5に占める割合は10~95重量8、好ま

95033号公報に記載)、ジスチリルベンゼン分格を 有するアン劇料(特別昭53-133445号公叔)、トリ フェニルアミン骨格を有するアゾ顔料(特開昭53-132347号公報に記載)、ジベンゾチオフェン骨格 を有するアン薊料(特開町54-21728号公報に記報)、 オキサジアソール骨格を有するアソ劇料(特別昭 54-12742号公银に記載)、フルオレノン骨格を有 するアン麒科(特開昭54-22834号公報に記報)、ビ ススチルベン骨格を有するアゾ顔料(特開昭54-17733号公報に記載)、ジスチリルオキサジアゾー ル骨格を有するアン顱料(特開昭54-2129号公報 に記載)、ジスチリルカルパゾール骨格を有する アゾ薊科(特関昭54-14967号公報に記載)などのア ソ劇料、例えばシーアイピグメントブルー16(CI 74100)などのフタロシアニン系顔料、例えばシー アイパットブラウン5(CI 73410)、シーアイパッ トダイ(CI 73030)などのインジゴ系顔料、アルゴ スカーレットB(パイエル社製)、インダンスレン スカーレットR(パイエル社製)などのペリレン系 顱科などが挙げられる。なお、これらの世荷発生

しくは50-90重量が程度である。また、電荷搬送層 4に占める化合物の量は10~85単量%、好ましくは 30~90重量8である。第4回に示した感光体を作成 するには、導電性支持体1上にアミノピフェニル 化合物と結合剤とを溶解した溶液を強布し、乾燥 して電荷搬送層4を形成したのち、この電荷搬送 間の上に電荷発生植物質の微粒子を、必要によっ て結合剤を溶解した溶媒中に分散した分散被をス プレー強工等の方法で放布乾燥して電荷発生/1/5 を形成すればよい。世荷発生層あるいは電荷搬送 間の量比は第3図で説明した内容と同様である。 このようにして得られた感光体の電荷発生例5の 上に更に適当な樹脂溶液をスプレー強工等の方法 により保護層6を形成することにより第5関に示す 感光体を作成できる。ここで用いる樹脂としては、 後記する結合剤が使用できる。

なお、これらのいずれの感光体製造においては 導電性支持体1に、アルミニウムなどの金属板又 は金属筒、アルミニウムなどの金属を蒸消したプ ラスチックフィルム、あるいは導能処理を施した 紙などが用いられる。また、結合剤としては、ポリアミド、ポリウレタン、ポリエステル、エポキン切断、ポリケトン、ポリカーボネートない、ポリケトン、ポリアクリルアミン・ポリーN-ビニルカルパソール、ポリアクリルアミドのようなビニル銀合体などが用いられるが、絶称性であるる樹脂はすべて使用できる。せび要により可塑剤としてはカロゲン化パラフィンブチルコタレートなどが例示できる。

更に、以上のようにして得られる感光体には、 専能性支持体と感光剤の間に、必要に応じて接着 耐又はパリヤ層を設けることができる。これらの 耐に用いられる材料としては、ポリアミド、ニト ロセルロース、酸化アルミニウムなどであり、ま た膜厚は1m以下が好ましい。

本発明の感光体を用いて複写を行なうには、感 光面に存電、舞光を施した後、現像を行ない、必 要によって、紙などへ転写を行なう。本発明の感

(%)はCeella:Nとして下記の通りであった。

	C	Н	N
実 湖 值	89.45	6.62	3.98
計算值	89.36	6.63	4.01

#### (化合物 № 89の合成例)

3-アミノビフェニル4.00g、p-ヨードトルエン15.46g、炭酸カリウム9.80g及び制粉0.10gをニトロベンゼン100gに採り窒素気流下、エステル管で共沸脱水しながら210-212℃で16時間撹拌した。室温まで冷却した後セライトを用いて遮透した。空波圧下でニトロベンゼンを留去した。ついで残ををトルエンで抽出、水洗し、有機層を破験マグネシウムで乾燥をおこない、減圧濃縮して、でグネシウムで乾燥をおこない、減圧濃縮して、機色の油状物を得た。これをシリカゲルカラム処理(溶離液:トルエン-n-ヘキサン混合溶媒)を2回おこない、エタノールついでn-ヘキサンから再結品して、無色プリズム結晶のN,N-ビス(4-メチルフェニル)-[1,1'-ピフェニル]-3-アミン4.58g(収率55.4%)を得た。触点は105.0~105.7℃であった。元素分析値(%)はCasHasNとして下記の通りであった。

光体は態度が高く、また可模性に高むなどの優れ た利点を有している。

#### (実施例)

以下、実施例により本発明を説明する。なお、 下記実施例において部はすべて重量部である。 (化合物 Na 2 の合成例)

2-アミノビフェニル8.00g、p-ヨードトルエン30.84g、炭酸カリウム19.61g及び銅粉0.20gをニトロベンゼン160mgに採り窒素気液下、エステル管で共沸脱水しながら211℃で26時間損拌した。室温まで冷却した後セライトを用いて濾過し、濾散を滅圧下でニトロペンゼンを倒去した。ついで残変をトルエンで抽出、水洗し、有機層を破破ですが、減圧濃縮していて対ネシウムで乾燥をおこない、減圧濃縮してですが増生がある。これをシリカゲルカラム処理(溶離被:トルエン-n-ヘキサン混合溶媒)を2回おこないエタノール-酢酸混合溶媒から再結品して、無色柱状結晶のN,N-ビス(4-メチルフェニル)-[1.1/-ビフェニル]-2-アミン7.11g(収率43.0g)を得た。機点は136.0-136.5℃であった。元湯分析値

た・

	С	н	N
実 測 値	89.41	6.48	3.95
計算額	89.36	6.63	4.01

#### 突施例1

電荷発生物質としてダイアンブルー(シーアイピグメントブルー25、CI 21180)76部、ポリエステル樹脂(バイロン200、隣東洋紡穀製)の28テトラヒドロフラン溶液1260部およびテトラヒドロフラン3700部をボールミル中で粉砕混合し、得られた分散液をアルミニウム蒸着したポリエステルベースよりなる導電性支持体のアルミニウム面上にドクターブレードを用いて塗布し、自然乾燥して厚さ約1/mの電荷発生層を形成した。

一方、電荷搬送物質としては Na 2のアミノビフェニル化合物 2 部、ポリカーポネート樹脂 (パンライト K1300、 機 存入 製) 2 部 およびテトラヒドロフラン16 部を混合溶解して溶液とした後、 これを前記電荷発生 歴上にドクターブレードを用いて強布し、80℃で2分間、 ついで120℃で5分間乾燥して

厚さ約20μmの電荷搬送層を形成せしめて感光体 Ma 1を作成した。

实施例2~27

電荷発生物質および電荷搬送物質(アミノビフェニル化合物)を表-1に示したものに代えた以外は実施例1とまったく同様にして越光体No. 2~27を作成した。

- 1		<del></del>	<del>,</del>	
	概 荷 殿 送 物 質 (アミノビフェニル 合物配)	7	2	
#	鬼 荷 発 生 物 質	$\bigcirc \text{-NNOC} \text{ OH } \text{H}, \text{COC} \text{-N-N-} \bigcirc \text{-N-N-} \bigcirc \text{-N-N-} \bigcirc \text{-N-N-N-} \bigcirc -N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N$	$\bigcirc \text{-HVOC} \text{ OH } \text{ CL} \qquad \text{CL} \qquad \text{HO} \qquad \text{CMM-}\bigcirc$ $\bigcirc \text{-N} = \mathbb{N} - \bigcirc \text{-N} = \mathbb{N} - \bigcirc$	R.C. OF HINDE ON HO CONSTITUTION HO CONSTITUTION HO CONSTITUTION OF CHECK O
	場光体版	1	8	က

8	N	8
O-HYGC OH HO CONH-O	CA CA O CONTROL ON TO CONTROL ON TO CONTROL ON TO CONTROL ON TO CASE (2) (2) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	CH, O-HYOC, OH HO CANH-(O-0CH,
4	വ	ထ

2	o, w	o o	88	8.9	20	20
4 数億フタロシアニン	O-HNC OH OCH, IS,OO HO CONH-O	O-truc on cs cs no cavif-O	P - 1	P - 2	P - 1	P - 2
7	<b>00</b>	ō	10	11	12	13

感光体No	電荷発生物質	低 荷 搬 送 物 質 (アミノビフェニル 化合物No)
1 4	P - 1	6
1 5	P - 2	6
1 6	P - 1	2 2
1 7	P - 2	2 2
18	P - 1	2 5
1 9	P - 2	2 5
2 0	P - 1	7 0
2 1	P - 2	7 0
2 2	P - 1	9 5
2 3	P - 2	9 5
2 4	P - 1	1 1 1
2 5	P - 2	1 1 1
2 6	P - 1	8 8
2 7	P - 2	8 8

実施例28 厚さ約300μmのアルミニウム板上にセレンを厚

部にテトラヒドロフラン158部を加えた混合物をポールミル中で粉砕、混合した後、これに Na 89のアミノビフェニル化合物12部、ポリエステル樹脂(デュポン社製ポリエステルアドヒーシブ48000)18部を加えて、さらに混合して特た感光層形成被を、アルミニウム蒸煮ポリエステルフィルム上にドクターブレードを用いて塗布し、100℃で30分間乾燥して厚さ約16㎞の感光層を形成せしめて、本発明の感光体No.30を作成した。

#### 実施例31

アルミニウム蒸着したポリエステルフィルム 拡 板上に、実施例8で用いた電荷搬送 / 増 強工被を 実 施例1と同様にしてブレード 強工し、ついで乾燥 して厚さ約20㎞の電荷搬送 / を形成した。ビスア ソ 観料(P-2)13.5部、ポリビニルブチラール( 所品名: XYHLユニオンカーバイトプラスチック 社製)5.4部、THF 680部及びエチルセロソルブ1020部をポールミル中で粉砕混合した後、エチルセロソルブ1700部を加え提押混合して電荷発生 / 層上にスプ 得た。この強工被を上記の電荷搬送 / 州の上にスプ

さ約1 mに真空蒸着して電荷発生剤を形成せしめた。次いで to 89のアミノビフェニル化合物 2 部、ポリエステル樹脂 (デュポン社製ポリエステルアドヒーシブ 48000) 3 部およびテトラヒドロフラン 45 部を混合、将解して電荷搬送層形成被をつくり、これを上記の電荷発生剤 (セレン蒸着層)上にドクターブレードを用いて塗布し、自然乾燥した後、酸圧下で乾燥して厚さ約 10 mの電荷搬送剤を形成せしめて、本発明の感光体No. 28を料た。

#### 实施例29

セレンの代りにペリレン系類料

を用いて電荷発生層(但し、厚さは約0.6 m)を形成した、かつ電荷搬送物質としてアミノビフェニル化合物 No.2 を用いた以外は実施例28とまったく間様にして磁光体No.29を作成した。

#### 実施例30

ダイアンブルー(実施例1で用いたものと同じ)1

レー強工し、100℃で10分間乾燥して厚さ約0・2 mの電荷発生層を形成した。さらにこの電荷発生層の上にポリアミド樹脂(商品名:CM-8000、東レ製)のメタノール/n-ブタノール溶液をスプレー強工し120℃で30分間乾燥して厚さ約0・5 mの保設層を形成せしめて感光体No・31を作成した。

かくしてつくられた感光体 Mai-31について、市販の静電複写紙試験装置(KK川口電機製作所製SP428型)を用いて-6KV又は+6KVのコロナ放電を20秒間行って帯電せしめた後、20秒間暗所に放置し、その時の表面電位 Vpo(ポルト)を測定し、ついでタングステンランプ光を、感光体表面の照度が4.5ルックスになるよう照射してその表面電位がVpoの1/2になる迄の時間(秒)を求め、露光量E1/2(ルックス・秒)を算出した。その結果を表-2に示す。

また、以上の各感光体を市販の電子写真複写機 を用して帯電せしめた後、原図を介して光照射を 行って静電潜像を形成せしめ、乾式現像剤を用い て現像し、得られた画像(トナー画像)を普通紙上 に静電転写し、定着したところ、鮮明な転写画像 が得られた。 現象剤として超式現象剤を用いた場合も同様に鮮明な転写画像が得られた。

表 - 2

8.光体 ho	Vpo	E 1/2
3 /L 74 IU	(ポルト)	(ルックス・秒)
1	-1106	1.38
3	-1306	1.32
3	- 1204	1.02
4	- 1008	1.24
5	-1323	1.08
6	- 987	1.08
7	- 942	1.35
8	<b>- 1252</b>	1.38
9	-1326	1.29
1.0	- 1222	1.04
1 1	- 1332	1.19
1 2	- 1344	1.06
1 3	<b>-1358</b>	1.10
1 4	- 1351	1.07
1.5	- 1292	1.17
16	- 1315	1.05
17	- 1346	1.12
18	- 1214	0.98
19	-1117	1.02
20	<del>-</del> 1153	0.92
2 1	- 1066	1.99
2 2	<del>-</del> 1206	1.02
2 3	- 1193	1.06
2 4	- 1294	1.08
2 5	- 1344	1.21
26	- 1310	1.09
2 7	-1381	1.22
2 8	- 1021	1.42
29	- 962	1.45
3 0	+1186	1.39
3 1	+1362	1.10

#### 〔効 果〕

本発明の感光体は感光特性に優れていることは 勿論のこと、熱や機械的の衝撃に対する強度が大 で、しかも安価に製造することができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図~第5図は本発明にかかわる電子写真感光 体の厚さ方向に拡大した断面図である。

1… 游電性支持体

2,2',2",2",2""… 够光剂

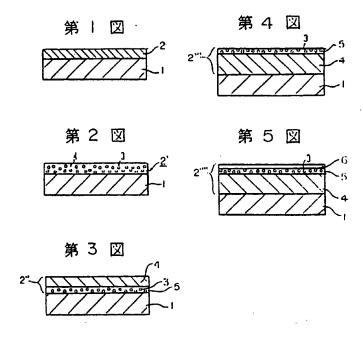
3… 健荷発生物質

4… 電荷搬送媒体又は電荷搬送層

5…電荷発生層

6…保護層

特許出願人 株式会社 リ コ ー 代 理 人 弁 理 士 池 浦 敏 明 (ほか1名)



# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

# **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:		
☐ BLACK BORDERS		
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES		
□ FADED TEXT OR DRAWING		
BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING		
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES		
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS		
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS		
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT		
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY		

## IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**□** OTHER: \_

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.